

サブインターフェイスから物理インターフェイスへの移動後に「show run」に表示されないFTDの「monitor-interface」コマンドのトラブルシューティング

内容

お問い合わせ内容

複数のサブインターフェイスをFirewall Threat Defense(FTD)1140 HAペアの物理インターフェイスに移動すると、それまでshow runコマンドの出力に表示されていたmonitor-interfaceコマンドが標準設定ビューに表示されなくなります。これらのコマンドは、show run allコマンド出力を使用する場合にだけ表示されるようになりました。この変更は、移行中に変更されなかったインターフェイスに対しても行われました。

最初のインターフェイスは次のとおりです。

- E1/1ネットワーク1
- E1/2.1 net2
- E1/2.2 net3
- E1/2.3ネットワーク4
- E1/2.4内部

新しいインターフェイスのレイアウトは次のとおりです。

- E1/1ネットワーク1
- E1/2.4内部
- E1/3ネットワーク2
- E1/4ネットワーク3

- E1/5 net4

インターフェイスを変更する前は、monitor-interfaceコマンドが標準のshow runコマンド出力に表示されていました。

```
<#root>
```

```
device#
```

```
show running-config | include monitor-interface
```

```
monitor-interface net1  
monitor-interface net2  
monitor-interface net3  
monitor-interface net4  
monitor-interface inside  
no monitor-interface service-module
```

サブインターフェイスから物理インターフェイスに移行した後、show runコマンド出力にはmonitor-interfaceコマンドのサブセットだけが表示されます。

```
<#root>
```

```
device#
```

```
show running-config | include monitor-interface
```

```
monitor-interface inside  
no monitor-interface service-module
```

ただし、show run all コマンドを実行すると、すべてのmonitor-interfaceコマンドが表示されます。

```
<#root>
```

```
device#
```

```
show running-config all | include monitor-interface
```

```
monitor-interface net1  
monitor-interface net2  
monitor-interface net3  
monitor-interface net4  
monitor-interface inside  
no monitor-interface service-module
```

この動作変更は、標準のshow runコマンド出力に表示されるmonitor-interfaceコマンドに依存するコンプライアンスモニタリングポリシーに影響を与えています。

環境

- ハイアベイラビリティ(HA)構成のCisco Firewall Threat Defense(FTD)1140アプライアンス他のハードウェアプラットフォームも影響を受ける可能性があります。
- FTDソフトウェアバージョン : 7.6.4他のソフトウェアバージョンも影響を受ける可能性があります。
- サブインターフェイスから物理インターフェイスへの設定変更を実行。

解決策

これは予期された動作であり、誤動作やソフトウェアの不具合を示すものではありません。インターフェイスがサブインターフェイスから物理インターフェイスに変更されると、デフォルトのmonitor-interface動作が変更され、デフォルトの設定に一致するコマンドは、標準のshow runコマンドの出力には明示的に表示されません。monitor-interfaceコマンドは引き続きアクティブで機能しますが、現在は物理インターフェイスのデフォルト設定と見なされています。デフォルト設定は、show run allコマンド出力を使用するときだけ表示されます。このコマンドは、明示的な設定とデフォルトの設定の両方を表示します。

確認手順

モニタインターフェイス機能がまだアクティブであることを確認するには、次のコマンドを使用します。

ステップ1:標準構成の表示を確認します。

```
<#root>
```

```
device#
```

```
show running-config | include monitor-interface
```

ステップ2:デフォルトを含む完全な設定を確認します。

```
<#root>
```

```
device#
```

```
show running-config all | include monitor-interface
```

ステップ3:フェールオーバーモニタリングステータスを確認します。

```
<#root>
```

```
device#
```

```
show failover
```

ステップ4:フェールオーバー用にモニタされたインターフェイスに関する情報を表示するには、次のコマンドを実行します。

```
<#root>
```

```
device#
```

```
show monitor-interface
```

show runコマンドとshow run allコマンドの出力の違いは、monitor-interfaceコマンドが明示的な設定としてではなく、デフォルトの設定として機能していることを示しています。

原因

- インターフェイスがサブインターフェイスから物理インターフェイスに移行されると、FTDシステムはmonitor-interfaceコマンドにさまざまなデフォルト動作を適用します。

- 物理インターフェイスでは、デフォルトでmonitor-interfaceが有効になっているため、これらのコマンドは、デフォルト設定と異なる場合を除き、実行コンフィギュレーションに明示的に表示されません。
- 一方、サブインターフェイスでは明示的なmonitor-interface設定が必要です。これが、以前にこれらのコマンドが標準のshow runコマンド出力に表示されていた理由です。
- これは、ソフトウェア不具合ではなく、サブインターフェイスと物理インターフェイスのデフォルト設定の動作の違いです。

関連コンテンツ

- https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/security/asa/asa-cli-reference/S/asa-command-ref-S/m_show_is-show_m.html#wp3555445722

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。